



日口交流

発行 : 特定非営利活動法人 日口交流協会

E-mail: nichiro@nichiro.org

Home Page <http://www.nichiro.org>

〒106-0041 東京都港区麻布台3-4-14 麻布台マンション401号

Tel : 03 (5563) 0626 Fax : 03 (5563) 0752



イルクーツク留学記

渡邊 眞子

2017年8月から2018年6月にかけてロシア・シベリア東部に位置するイルクーツクに留学した。今回のロシアへの長期での留学は2016年のモスクワへの短期留学がきっかけとなった。当時もっとこの国とロシア語について理解したいと感じたためだ。

ロシアに初めて降り立ったとき、私が見たものはヨーロッパ化された、近代的な建物が立ち並ぶ大都会モスクワだった。その時は強く意外性を感じたことを覚えている。そこには自分が世界史の教科書で見ていたようなソ連の面影をありありと感じることはできなかったからだ。

一方、イルクーツクに来たばかりの頃を振り返ると良くも



悪くもソ連の面影が未だに残る小さな町という印象を受けた。数十年ほど前にできたように見受けられるコンクリートの集合アパートやゆがんだ道を走る土埃のついた車…そんなイルクーツクでの生活で一番記憶に残っていることと

言えばやはり数か月にわたる厳しい寒さである。9月に初雪が降って物珍しがっていたのも東の間、10月には既に日本の冬を超えた寒さになっていた。11月から2月にかけては氷点下2ケタはざらで、外に出たとたん冷気でむせこみ、痛いのを通り越して皮膚の感覚が無くなるほどだった。毛皮のコートを着てうつむきながら雪で踏み固められた道を黙々と歩く人々をみてまさにロシアのステレオタイプだと実感した。イルクーツクには他の都市と比べて華やかな観光名所や娯楽施設などは少なく、気候も過酷なため比較的住みづらい街かもしれない。そのような中でこの気候が人々の心理に直接的に影響しているかは定かではないが、出会った人はどこか哀愁を感じさせる雰囲気を醸し出しているような気がしてならなかった。

最終的にこの街と人をどう総括するべきかいまだに結論は出せていないが、今ではあれほど辛かった冬の寒さですら懐かしむようになっているので嘯めば嘯むほど味のある町、というようにしておこうと思う。去った時には次にまたこの地に足を踏み入れるのはいつのことになるやら見当もつかないと思ったが、今ではそう遠くない日のように思われる。おそらく日本にいるほとんどの人が一生来ることのない土地に来て、経験できたことの数々は一生ものとなり、また新たな目標を持つこともできた。外気で凍らせたバナナで釘を打ってみるというもう一つの小さな夢を残しつつ、次回向かうまでに一層語学の習得に努めようと思う今日である。